

環境経営レポート 2022

株式会社ジュンコーポレイション

Period covered 2022/1/1 ~ 2022/12/31

Release date 2023/2/1



組織の概要

事業所 : 株式会社ジュンコーポレーション
 〒379-0211 群馬県安中市松井田町上増田53-1
 ☎ 027-393-1375 FAX 027-393-4331 URL <https://www.jun-corporation.com>

代表者 : 代表取締役 小坂橋 義和
 E-mail yoshikazu@jun-corporation.com

管理責任者 : 品質管理課 宮田 延之
 E-mail miyata@jun-corporation.com

事務局 : 総務課 多胡 美千子
 E-mail tago@jun-corporation.com

環境委員 : 技術課 熊谷 俊明
 E-mail kumagae@jun-corporation.com

環境委員 : 製造課 金井 貴徳
 E-mail hp@jun-corporation.com

事業内容 : プラスチック射出成形製品及び金型の製造・販売
 ガスインジェクションやヒートアンドクールの特許技法が得意

事業規模	:	資本金	売上高	社員数	敷地面積	建物面積
		1,000万円	6億1千万円	41名	2,435㎡	1,539㎡

会社沿革



- 企業理念 ① 諸法令を守り、社内外において正直な会社でありたい。
② 会社に働く人々が能力開発につとめ、一人一人全員が幸せである会社でありたい。
③ あらゆる人に思いやりをもち あらゆる部門間において気を配り (以下省略)

環境経営方針

株式会社ジュンコーポレイションは、プラスチック製品の製造において環境保全活動が重要な課題であると認識し、積極的に取り組みます。

行動指針

1. 全社員が環境保全活動に参加し、継続して改善します。
2. 当社の事業活動に関連する環境関連法規を遵守します。
3. 当社の事業活動に伴う以下の環境負荷の削減に取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の削減
 - (3) 水使用量の削減
 - (4) 化学物質使用量の削減
4. 当社の製品・サービスにおいて、顧客満足を向上します。
5. 代表者が環境保全活動の成果を見直し、継続して改善します。
6. 当社の環境方針は全社員に周知し、一般に公開します。

改定 2021年1月19日

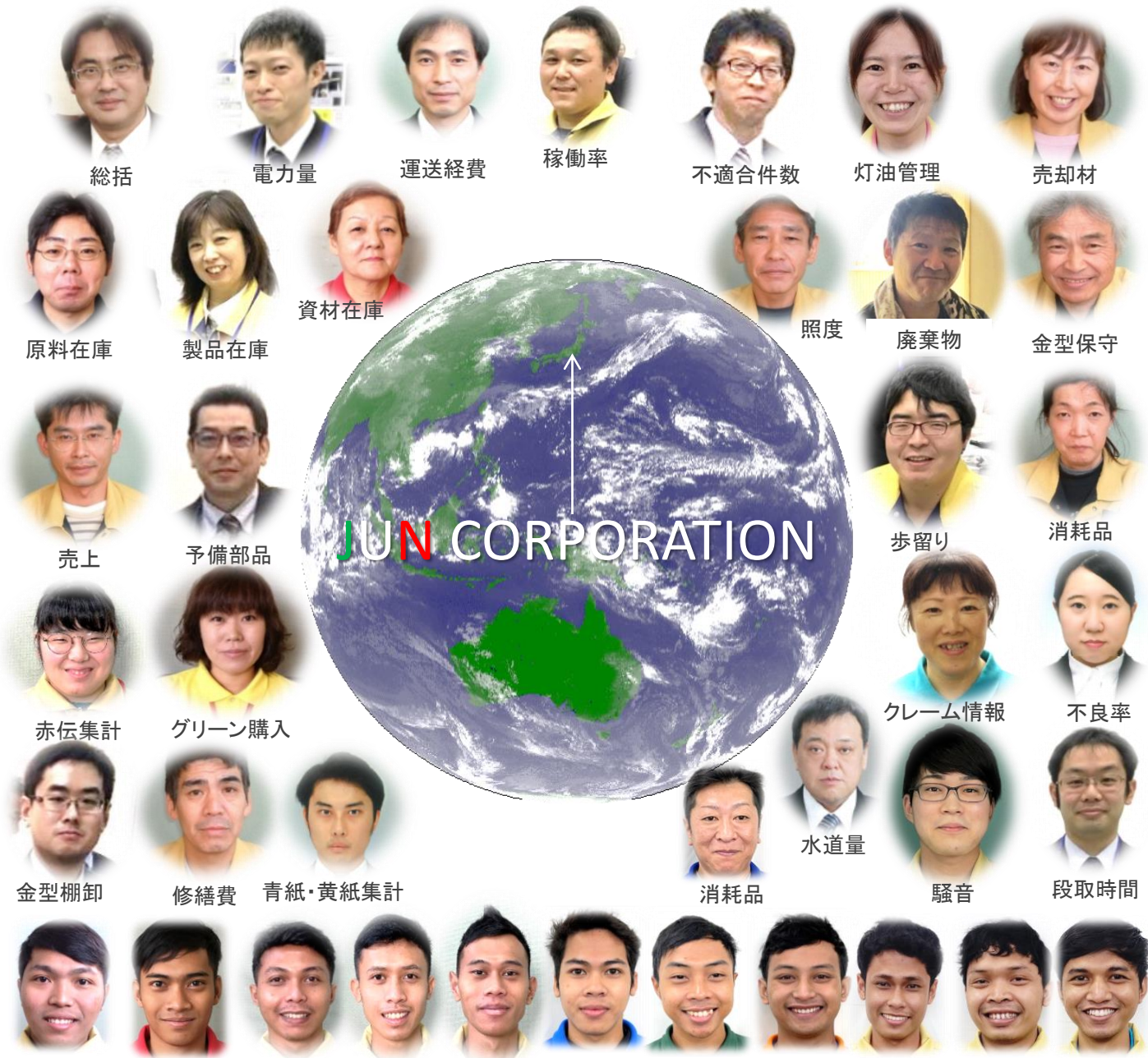
制定 2006年6月19日

株式会社ジュンコーポレイション

代表取締役 小板橋 義和

1 対象範囲

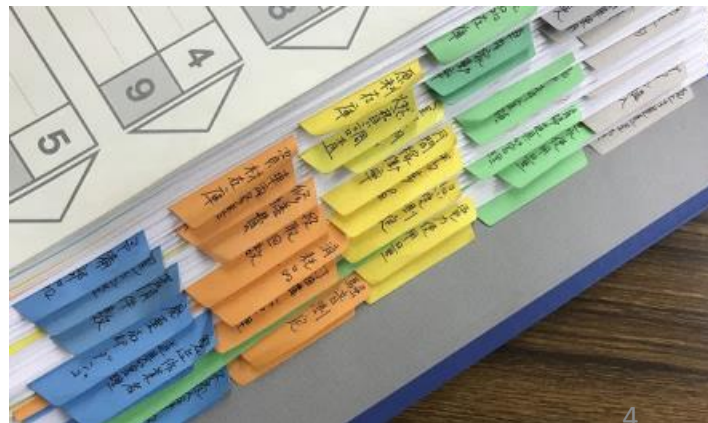
全社員が環境保全活動に参加し、継続して改善しています。



整理・整頓・清掃 及び インドネシア語マニュアル制作



2006年から エコアクション21 改善活動を継続しています。



社員全員がひとり一つの改善項目を実施しています。

昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

更新された法規はないか、新たに追加すべき法規はないか再確認し、最新のものとなっているよう責任をもって管理する。

本年度の改善実施 Do

法令自体の改定日を記し、必要な管理を実施する。

環境関連法規	管理内容 Plan	実施状況 Do	遵守 Check
自動車NOx・PM法 2023.0101	尿素SCRシステムの装着及び 八都県指定粒子状物質減少装置の装着	2tトラック 尿素SCRシステム装着済	○
群馬県の生活環境を保全する条例 2022.04.01	粉塵特定施設【強化プラスチック製品の製造の用に供する成形機】を知事へ届出	17台の全成形機 届出済 最終届出日2016.9.29 (2号機)	○
フロン排出抑制法 2022.06.17	7.5Kw未満のエアコン (簡易点検4半期に1回以上) 7.5Kw以上のエアコン (定期点検3年に1回以上)	7.5Kw未満のエアコン (5台) 簡易点検4半期に1回実施 (自主点検) 7.5Kw以上のエアコン (2台) 定期点検2021年3月13日実施	○
浄化槽法 2022.06.17	11条検査 1回、点検年2回実施	11条検査1/13実施済 点検4 /1、5/10、9/27実施済	○
騒音規制法 2022.06.17	朝 6～8時 50dB 昼間 8～18時 55dB 夕 18時～21時 50dB 夜間 21時～6時 45dB 成形機、特定施設設置届出	規制値以下であった。 17台の全成形機 届出済 最終届出日2016.9.26 (2号機) 近隣住民からの苦情無し	○
振動規制法 2022.06.17	昼間8～19時 70dB 夜間19～8時 65dB 成形機、特定施設設置届出	規制値以下であった。 17台の全成形機 届出済 最終届出日2016.9.26 (2号機)	○
悪臭防止法 1972.05.30	臭気規制基準に準ずる 苦情が発生した際、安中市から測定される	近隣住民の苦情無し	○
自動車リサイクル法 2022.06.17	自動車リサイクル料の支払い 2tトラック、アウディ、パレット、ダッジ	社用車4台全て対応済	○
廃棄物処理法 2022.06.17	・廃棄物の保管・整備・管理 産業廃棄物に対するマニフェスト管理 ・毎年6/30までに1年間のマニフェストの交付状況を知事に報告	一般廃棄物と産業廃棄物の分別処分済 マニフェスト発行100%実施 2022年6月14日 報告済	○
P R T R 法 1999.07.13	第一種指定化学物質の排出量の把握及び届出 1000kgを超える場合届出	アンチモン排出量 454.2kgの為届出 不要	○
労働安全衛生法 2022.06.17	健康診断 日勤 (1回/年)、夜勤 (2回/年) クレーン定期自主点検 (1回/年) フォークリフト定期自主点検 (3台)	10/7日勤実施、4/9、10/7夜勤実施 7/12実施 (2基) 3/30、4/5、10/6実施 (3台)	○
高圧ガス保安法 2022.06.22	高圧ガス発生装置2台のメーター及び安全弁の校正と自主点検	3/19、12/10メーター、安全弁の校正実施 自主点検毎月実施済 (定期点検記録表)	○
消防法 2022.06.17	避難訓練年1回、 消防用設備等点検 (1回/3年報告)	8/13火災避難訓練実施済 2021/11/30 点検済	○
工場立地法 2022.06.17	工場敷地面積の15%確保	23.8%確保済 敷地面積 (3962㎡)、緑地面積 (941㎡)	○

環境関連法規の遵守 Check

環境関連法規の全項目を実施し、遵守しています。
近隣住民からの苦情及び訴訟等の問題は、ありませんでした。

社長の評価・指示 Action

定期的に法規を確認し、変更点や追加事項の有無を確認し、届出漏れや実施・点検漏れの無いように管理してください。



昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

二酸化炭素排出量の割合は、約9割が電力使用で占められていることから、①電力の削減を重点にデマンドコントロールの設定値を低減。②ヒートアンドクール製品の不良率低減に挑戦し、電力使用量及び灯油使用量の両面からCO₂削減に取り組む。燃料費（ガソリン・軽油）やLPガスは現状を維持する。

本年度の改善実施 Do

①デマンドコントロール設定値を2021年240kwから、2022年235kwに低減し全社員で節電を実施。



②ヒートアンドクール製品の異物対策で、(1月)輸送ホース交換、(3月)スクリーニング清掃・粉取り装置設置・原料を乾燥機へ直接投入、(4月)スクリーニング清掃や原料乾燥機の分解清掃を実施し改善傾向ではあったが、(1月～6月)S社の製品で異物の発生原因がつかめず不良率を増加させてしまった。

	2021年	2022年	評価
ヒートアンドクール製品不良率 (%)	7.3	8.1	×
灯油使用量 (ℓ)	21,378	23,054	

※ヒートアンドクールとは金型を急加熱・急冷却する技法であり高温高圧の水蒸気を作るボイラーに灯油を使用している。

二酸化炭素排出量の削減評価 Check

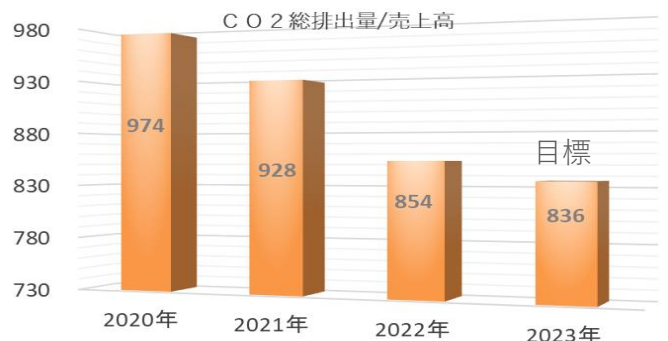
CO₂排出量は長期目標2020年比で12.4%削減、短期目標2021年比で7.9%削減となり目標を達成した。①夏季にデマンドコントロールのアラームが頻繁に鳴っていたが、全社員で即時対処したことで削減の効果が出了。社員の削減意識にも良い影響をもたらしたと評価する。②ヒートアンドクール製品の不良率が増加してしまった為、灯油によるCO₂排出量/売上高比で4.8%増加したが、電力使用量の削減が大きかったおかげでCO₂総排出量では削減できた。

長期目標 2020年比 2022年まで	短期目標 前年比	2020年	2021年	2022年	2021年比 評価
CO ₂ 総排出量 2%削減 (売上対比)	CO ₂ 総排出量 1%削減 (売上対比)	CO ₂ 総排出量 = 499,630kg-CO ₂ 売上高 = 510百万円 CO ₂ 総排出量/売上高 = 974kg/百万円	CO ₂ 総排出量 = 550,615kg-CO ₂ 売上高 = 593百万円 CO ₂ 総排出量/売上高 = 928kg/百万円	CO ₂ 総排出量 = 520,330kg-CO ₂ 売上高 = 609百万円 CO ₂ 総排出量/売上高 = 854kg/百万円	売上比 7.9%減 ◎
電力 2%削減 (売上対比)	電力 1%削減 (売上対比)	CO ₂ 排出量 = 437,709kg-CO ₂ (排出係数0.41) CO ₂ 排出量/売上高 = 858kg/百万円	CO ₂ 排出量 = 484,457kg-CO ₂ (排出係数0.41) CO ₂ 排出量/売上高 = 816kg/百万円	CO ₂ 排出量 = 449,383kg-CO ₂ (排出係数0.41) CO ₂ 排出量/売上高 = 737kg/百万円	売上比 9.6%減 ◎
灯油 2%削減 (売上対比)	灯油 2%削減 (売上対比)	CO ₂ 排出量 = 47,409kg-CO ₂ CO ₂ 排出量/売上高 = 93.0kg/百万円	CO ₂ 排出量 = 53,233kg-CO ₂ CO ₂ 排出量/売上高 = 89.8kg/百万円	CO ₂ 排出量 = 57,406kg-CO ₂ CO ₂ 排出量/売上高 = 94.2kg/百万円	売上比 4.8%増 ×
ガソリン 軽油 15,000 (kg-CO ₂ 以下)	ガソリン 軽油 15,000 (kg-CO ₂ 以下)	CO ₂ 排出量 = 14,452kg-CO ₂ CO ₂ 排出量/売上高 = 28.3kg/百万円	CO ₂ 排出量 = 12,895kg-CO ₂ CO ₂ 排出量/売上高 = 21.7kg/百万円	CO ₂ 排出量 = 13,542kg-CO ₂ CO ₂ 排出量/売上高 = 22.2kg/百万円	15,000 kg-CO ₂ 以下 ◎
LPガス 1,000 (kg-CO ₂ 以下)	LPガス 1,000 (kg-CO ₂ 以下)	CO ₂ 排出量 = 60kg-CO ₂ CO ₂ 排出量/売上高 = 0.12kg/百万円	CO ₂ 排出量 = 30kg-CO ₂ CO ₂ 排出量/売上高 = 0.05kg/百万円	CO ₂ 排出量 = 0kg-CO ₂ CO ₂ 排出量/売上高 = 0kg/百万円	1,000 kg-CO ₂ 以下 ◎

社長の評価・指示 Action

2022年は油圧成形機を1台除却したこと、社員の節電により、電力使用量は大幅に削減することができた。しかしながら東京電力の値上げにより、電気料金が倍増し、さらに値上げすると報道されている。

2023年は今までの活動の継続に加え、油圧機械の電動化、太陽光発電、地下水利用など設備投資を含めて提案・改善をお願いします。



3 (2) 廃棄物排出量の削減 長期目標 2%削減・短期目標 1%削減



昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

当社の廃棄物排出量の約9割をプラスチック類が占めており、主にプラスチック類の廃棄物削減をめざす。現在、粉碎活用（リサイクル）できていない製品をリスト化し、改めて粉碎活用を促進する。

本年度の改善実施 Do

粉碎を使用できていない製品60品目から12品目をリストアップ（右図）して、粉碎活用を実施したところ、10品目で活用でき、約1200Kgの粉碎活用に成功した。NGと判断した2品目は色むらが多発したため断念した。

顧客	製品名	粉碎活用
I社	DISE SHELL	○
	DISE PLATE	○
O社	BLADE	○
K社	95330カバー	○
	92595カバー	○
T社	洋風じょうご（黒）	○
	洋風じょうご（茶）	○
F社	RIM	○
	VL9 TOP PLQTE	×
	VH3 TOP PLAT	×
Y社	カバースキャナ	○
	カバー前給紙トレイ	○



廃棄物排出量の削減評価 Check

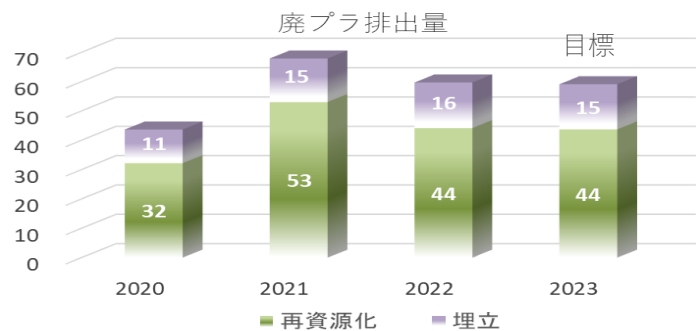
廃棄物の総排出量は2021年比（短期目標）19.0%削減となり目標達成となった。粉碎活用の効果も影響して、再生資源の排出量が2021年比で24.4%削減する事が出来た。しかしながら、2020年比（長期目標）3.0%増加で目標未達成であり、特に廃棄プラスチックが2021年比3.4%増加、2020年比23.0%も増加しているのは経営上大きな損失である。粉碎活用しない傾向に向かっているのがうかがえる。1月に顧客クレームにより製品を大量廃棄していた事実もあり精査する必要がある。

長期目標 2020年比 2022年まで	短期目標 前年比	2020年	2021年	2022年	原単位 評価
廃棄物 総排出量 2%削減	廃棄物 総排出量 1%削減	総排出量 = 49,530Kg 売上比率 = 97.1kg/百万円	総排出量 = 73,256Kg 売上比率 = 123.5kg/百万円	総排出量 = 60,893Kg 売上比率 = 100.0kg/百万円	2021年比 19.0%減 ◎

内 訳	2020年	2021年	2022年	原単位評価
再生資源	紙=203Kg 段ボール=1,938Kg 金属（金型）=1,920Kg 金属（スプレー缶）=87Kg 再生プラスチック=32,222Kg 再生資源合計 = 36,370Kg 売上比率 = 71.3Kg/百万円	紙=197Kg 段ボール=284Kg 金属（金型）=4,000Kg 金属（スプレー缶）=73Kg 再生プラスチック=53,044Kg 再生資源合計 = 57,598Kg 売上比率 = 97.1Kg/百万円	紙=241Kg 段ボール=105Kg 金属（金型）=150Kg 金属（スプレー缶）=54Kg 再生プラスチック=44,160Kg 再生資源合計=44,710Kg 売上比率 = 73.4Kg/百万円	2021年比 24.4%減 ◎
焼却・埋立	紙=1,681Kg 廃棄プラスチック=11,480Kg 焼却・埋立合計=13,161Kg 売上比率 = 25.8Kg/百万円	紙=783Kg 廃棄プラスチック=14,875Kg 焼却・埋立合計=15,658Kg 売上比率 = 21.4Kg/百万円	紙 609Kg 廃棄プラスチック 15,575Kg 焼却・埋立合計 16,184Kg 売上比率 = 26.5Kg/百万円	2021年比 23.8%増 ×

社長の評価・指示 Action

廃棄プラスチックの削減が急務である。その内訳を分析し、段取上の問題か、条件出し中の問題か、不良処理の問題か、粉碎活用の問題か、終了時片付けの問題か、要因の重要度を明確にして対策してください。2023年度は10,000Kg以下目標に対応願います。これは経営上も社会的責任上も重要なことであり全社員に周知徹底し実行してください。





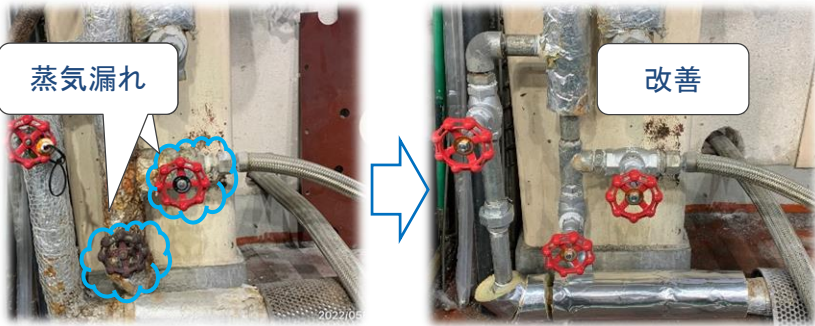
昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

工場内で使用している金型温調機及びボイラーの水は貯水槽により循環しているためロスは少なく、その他は生活用水として使用している。ボイラーは特殊技術であるヒート&クール（金型を急加熱・急冷却するシステム）で使用するためのものであるが区別して使用量を見極めるのは難しい。生活用水はトイレや手洗いの水が主で一般的な工場に比べれば圧倒的に少量である。漏れてから対処の事後保全ではなく、漏れる前に対処する予防保全の充実をめざす。①管理責任者と担当者で全配管の点検を実施し、修繕箇所があれば3月までに完了するよう実施し、②担当者による日常点検を至急始める。

本年度の改善実施 Do

①(5月)蒸気配管の修理を行い蒸気漏れの発生を止めた。(9月)ヒートアンドクール配管の接続部分から蒸気・水漏れが発生していた為、ホースの継手箇所を3箇所から2箇所に削減して水漏れ対策した。(5月)及び(11月)吸上げ・吸出しポンプのグランドパッキン交換を行い水漏れを対策した。

②成形日報の日常点検項目に水モレを記載し、技能士が担当し水漏れ確認をするようにした。



	日常点検	スタ
粉砕機		
分間		分
	<input checked="" type="checkbox"/> 通水・水モレ <input type="checkbox"/> 荷重 <input type="checkbox"/> 異音・異臭 <input type="checkbox"/> 整理・整頓	<input type="checkbox"/> 条件 <input type="checkbox"/> 作業基 <input type="checkbox"/> 標準見 <input type="checkbox"/> 重量
担当		担当
工程検査		
品質規格・基準寸法		注意

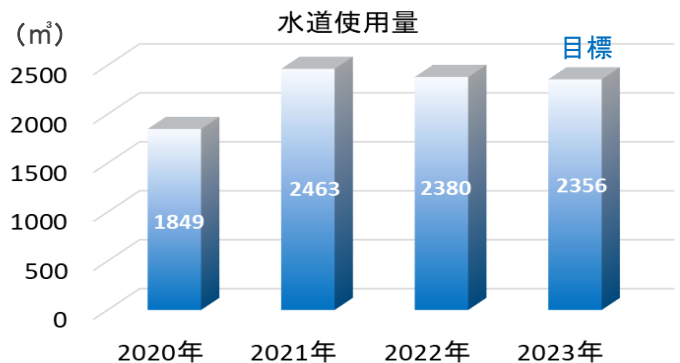
水使用量の削減評価 Check

水の使用量は長期目標で2020年比28.7%増加で目標未達、短期目標で2021年比3.3%削減となり目標達成の結果となりました。消火設備の放水訓練を実施したので2021年よりも使用量が増える事が予測できたが、保全の早期対処により2021年よりも減少させる結果となった。2023年も引き続き予防保全に注力し使用量削減を目指す。

長期目標 2020年比 2022年まで	短期目標 前年比	2020年	2021年	2022年	2021年比 評価
水使用量 2%削減	水使用量 1%削減	水使用量 = 1,849m ³ 売上比率 = 3.6m ³ /百万円	水使用量 = 2,463m ³ 売上比率 = 4.2m ³ /百万円	水使用量 = 2,380m ³ 売上比率 = 3.9m ³ /百万円	3.3% 削減 ◎

社長の評価・指示 Action

ひきつづき水漏れの早期発見・即時対処を徹底して推進してください。



3 (4) 化学物質使用量の削減 目標 RoHS禁止物質使用ゼロ・アンチモン排出量1,000Kg未満



昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

購入する全オイル・スプレー・グリス類の製品安全データシートを入手し、RoHS指令で禁止されている10物質（鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB・PBDE・DEHP・BBP・DBP・DIBP）が含まれていない状態を維持し、PRTR法でアンチモンの排出量が1,000Kgを超えないよう観測する。

本年度の改善実施 Do

全オイル・スプレー・グリス類の製品安全データシートを100%入手し、RoHS指令禁止物質が含まれていないことを確認した。使用原料のアンチモン含有についてもSDSにて含有量を確認し、排出量を算出した。



化学物質使用量の削減評価 Check

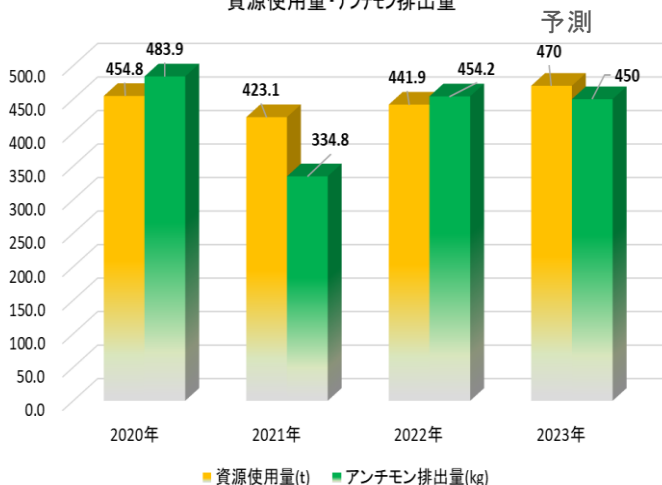
オイル・スプレー・グリス類を新規で使用する場合は、事前に製品安全データシートを入手し禁止物質が含まれない事を確認の上使用しているため、有害物質ゼロを維持継続している。アンチモンはアンチモン含有原料の使用量が増加した事で排出量も増加しているが目標の1000kg未満は維持している。

目標	2020年	2021年	2022年	評価
RoHS指令 禁止物質 使用ゼロ	有害物質使用ゼロ	有害物質使用ゼロ	有害物質使用ゼロ	使用0 ○
PRTR法 アンチモン 1000Kg未満	アンチモン排出量=483.9Kg 樹脂使用量=454.8t アンチモン量/樹脂量=0.11%	アンチモン排出量=334.8Kg 樹脂使用量=423.1t アンチモン量/樹脂量=0.08%	アンチモン排出量=454.2Kg 樹脂原料使用量=441.9t アンチモン量/樹脂量=0.10%	1000Kg 未満 ○

社長の評価・指示 Action

有害物質の使用はゼロを維持。アンチモンの排出量も引き続き目標値を超えないよう観測して下さい。

資源使用量・アンチモン排出量



5 代表者の見直し

代表者が環境保全活動の成果を見直し、継続して改善します。



お客様・社員の喜ぶ顔が見たくて・・・



【通路の改装】

カラフルなデザインで食堂への通路を一新。休憩時間のリフレッシュに一役かっています。



【インドネシア実習生の新宿舎】

実習生の為に住居を新調し快適な生活を提供。仕事も勉強も更に頑張れると思います。



【ハロウィン】

毎年、地域の小学生にお菓子と共に笑顔をお届け、準備するのもお届けするのもワクワクしてハッピーな気持ちになりました。



【健康経営 AED設置】

いざという時の為に！みんなの為に！セコム様の講習を受け、AEDの使用方法のみならず心臓マッサージなど体験しました。

全体の見直し（課題とチャンス）

2022年度も前半は人材不足に悩まされ思うように機械稼働をすることが出来なかったが、日本人2名、インドネシア実習生及び特定技能8名の全10名増員により人員不足は解消された。新型コロナウイルスによる半導体不足は、自動車関連の売上が落ち込んだが、家電やヘルスケアの売上増加に助けられ昨年同等の売上を維持できた。環境面の取り組みでは電気使用量が2021年を7.2%削減できているにも関わらず電気料金が32.2%増加している。社会問題となっている電気料金の値上げに対して既存の対策は継続しつつそれ以外の新たな発想により全社一丸となって削減に取り組む必要がある。

来年度に向けて

2023年度の会社方針は「個の力を上げてベクトルを合わせる」
個の力とは、一人ひとりが会社のため、仲間のため、お客様のため、地球のために、役に立つ存在になれるように自分を磨くことである。

6 環境経営方針の公開

当社の環境経営方針は全社員に周知し、一般に公開します。

当社の環境方針・環境経営レポートは一般に公開しています。

株式会社ジュンコーポレーション ホームページ <https://www.jun-corporation.com/EA21.html>